

# 井川中学校 「学力向上実行プラン」

## 学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- わかる喜びを実感させる授業実践の充実
- 「自ら取り組むことができる家庭学習習慣」の確立

## 学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員	校長 井上清隆	教頭 大谷一幸
英語科担当 山内幸子	教務 仁尾芳人	1学年主任 山口雄三	3学年主任 伊丹尚子
	2学年主任 山内幸子	国語科担当 森岡和士	数学科担当 田口智也

**校長**  
井上 清隆

### 【小中連携共通の取組】

次の授業の準備をして机の上を整理する。姿勢よく授業を受ける。勝手なおしゃべりはしない。先生の指示をよく聞く。

### 【各校の取組状況の把握について】

全教員による相互授業参観や報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

## ◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

### (1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○指示された学習や与えられた課題に真面目に取り組んでいる。 ●基礎的・基本的な学力を定着させることや、家庭での学習習慣の確立が課題である。	・宿題などの家庭学習を毎日欠かさず提出できる。 ・自らの課題に向き合い、積極的に課題を解決しようと努力することができる。	・自主勉強ノート以外に、各教科で適切な課題を与え、家庭学習習慣を定着させる。 ・ICT機器やデジタル教科書等を活用した授業やT・Tの連携を図り、下位層の生徒の学習支援を図る。	・教科によって家庭学習の時間に偏りがあるので教科間で連携をはかりながら適切で効果的な課題とする。 ・教科の単元に応じて、授業の形態を変え、下位層の生徒の学習支援を図る必要がある。	・各教科で適切な課題を与えることはできた。しかし一部の生徒は家庭学習の定着が不十分であった。 ・ICTやデジタル教材を活用したり、T・Tの連携は概ね達成できた。	・家庭学習時間を確保できていない生徒がいる。これらの生徒には家庭学習の意義等を再確認させる必要がある。生徒が家庭学習の内容を理解するために、補助資料・補助教材等を工夫し自学力を高める必要がある。

### (2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○グループ学習での話し合いや発表に積極的に取り組もうとする姿勢が見られる。 ●筋道を立てた説明や、相手にわかりやすい説明をすることを苦手とする生徒が多い。 ●文章を読んで、場の状況や人物の心情を想像することが苦手である。	・自主的に発表したり、グループ学習で自ら話し合いをすすめることができる。 ・自分の考えを、根拠を明らかにしながら筋道を立てて説明することができる。 ・人の気持ちに共感したり、問題を解決することができる。	・ペア学習やグループ学習の機会を設け、各グループごとで筋道を立てた説明を考えさせる。 ・ホワイトボードや付箋を活用し、話し合った内容を発表する機会を積極的に取り入れる。 ・生徒の発言や発表の内容に応じ、「なぜ」、「どうして」などの更なる発問で、生徒の考えを深めさせる。 ・朝読書の時間を各学年の実態に応じて設ける。	・教科の単元に応じて、ペア学習やグループ学習の機会を設けることができている。 ・内容に応じて、「なぜ」「どうして」の問いをし、内容を深めることができている。 ・各学年に応じた朝読書が行われている。	・ペア学習やグループ学習を適宜設けることができた。回数を重ねることにこの学習の形態に慣れてきた。 ・発表する生徒が固定化してしまう傾向がある。 ・「なぜ」「どうして」の「追質問」で考えを深めさせることができた。 ・朝読書の時間を各学年の実態に応じて行うことができた。	・発表する生徒が固定化しないように、どのグループもまんべんなく発表者になるように発表の方法を工夫する。また、「なぜ」「どうして」の「追質問」を考えさせた後により理解を深めるため、自分の言葉でまとめさせるなど国語力の向上をはかる。 ・朝読書の時間を次年度も継続して確保する。

### (3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各教科で与えられた課題や家庭学習については、ある程度習慣化し定着が見られる。 ●テスト前に、自らテスト勉強の計画を立て、学習を進めていくことに課題がある。	・各教科の学習に主体的に取り組む、わかるまで粘り強く取り組むことができる。 ・自分の学習の状況をしっかりと振り返り、自らの課題を解決できるよう計画を立て、実践することができる。	・各授業の毎時間のめあてや授業の流れを提示し、振り返りをする。 ・定期テスト1週間前に、テスト勉強の計画を立てさせ、テスト終了後に自らの学習の成果や課題を振り返り、記述させる。 ・テスト終了後、テストの振り返り学習を各教科で設ける。	・めあての提示はほぼ毎時間できていた。振り返りの時間はとれないときがある。 ・テスト2週間前に範囲を配り、各自でテスト勉強に取り組むことができている。 ・反省は各教科で適切に行う。	・めあての提示はほぼ毎時間できていた。振り返りは、時間を取ることができないときには、前時の復習として次時の授業の初めに行うこともあった。 ・テスト終了後、授業の中でテストの振り返りを行うことができた。	・学習内容が定着していない生徒については、内容理解を進めるために振り返りの仕方を生徒に指導していく。 ・補助資料などを活用し、生徒自らの課題を振り返り解決できるように支援する。

## 令和5年度 学力向上ロードマップ



